

令和2（2020）年度 地域連携教員研修報告

令和3年1月22日（金）

今年度の地域連携教員研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施方法を変更し、オンライン研修として実施しました。午前は、小学校と中学校の地域連携教員を対象とし、午後は、高等学校と特別支援学校の地域連携教員を対象とし、YouTubeによるオンデマンド配信で事例紹介を行い、事例を視聴後、各自の研修場所で個人演習を行いました。

事例紹介「地域連携教員の活動の実際～コロナ禍での地域連携活動を考える～」では、昨年度の新任地域連携教員研修で発表していただいた学校の取組事例と、コロナ禍でも実施できた今年度の地域連携活動を紹介しました。

演習「より効果的な地域連携活動を目指して～コロナ禍による影響を考慮して～」では、事例紹介から次年度にできそうなことについてワークシートに従い考えました。さらに、参加された各学校の今年度の地域連携活動一覧も活用しながら、参考になる地域連携活動はないか、自校に生かせる地域連携活動はないかを考え、次年度の活動計画を作成しました。受講者は、コロナ禍の中でどのような地域連携活動ができるかという視点を持ちながら作成することができたようです。作成した活動計画は、次年度の地域連携活動に生かしていただきたいと思います。



【受講者の感想から】

- ・コロナ禍で周りではどのような状況なのか分からずにいましたが、今回の研修を通してできることは何かを改めて考えることができました。地域連携教員としてやらなければならないことも明確になり、次年度の計画に生かすこともできると思いました。
- ・地域連携教員として、次年度は、各学年からの学校支援ボランティアのニーズを調査し、年間計画を見直していくことや、コロナ禍による影響も考慮して、従来通りの学校支援ボランティアではできないことも、別の方法での支援の形がないか再度検討し、実施していきたいと思います。
- ・今までのものをリデザインするという考え方がとても参考になりました。何か今までとは違うものをするということを考えることが多いのですが、現在の状況などを考えて「再考」していくことがよりよい方法の一つであると思いました。
- ・今回の研修で、活動内容の整理や担当部署との連携、職員間の共通理解を図るなど、地域連携教員の役割を再認識することができました。今年度のように、外部からの依頼があったときには窓口となり、地域の声を反映できるようにしたいです。
- ・研修から学んだ、「地域へ参画する」「地域の人材を生かす」「学校の力を生かす」「地域の資源を生かす」という4つの視点に立ち、本校の地域連携活動の内容を改めて整理し見直すことに、次年度力を入れていきたいと思っています。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206

e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp